

WEEKLY SIGNAL

2020年1月24日(金) 1509号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	1/27(月)	1/28(火)	1/29(水)	1/30(木)	1/31(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 800	+ 1,000	トシ	トシ	+ 500
財政他	+ 13,100	+ 1,000	△ 4,000	△ 2,000	+ 2,700
資金需給	+ 13,900	+ 2,000	△ 4,000	△ 2,000	+ 3,200
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		国債発行(40年)		
オペ期日	共通担保資金供給 △ 5,900 CP等買入 △ 600 補充供給 + 200				
オペスタート	共通担保資金供給 + 7,000				
(日本)			日銀金融政策決定会合における 主な意見(1月20・21日分)		CPI(前年比)(1月) 有効求人倍率(12月) 失業率(12月) 鉱工業生産(12月)
(海外)	米 新築住宅販売件数(12月)	米 FOMC(29日まで) 米 耐久財受注(12月) 米 消費者信頼感指数(1月)	米 FOMC声明発表、 パウエルFRB議長記者会見 米 卸売在庫(12月)	米 GDP(4Q) ユーロ圏 消費者信頼感指数(1月) ユーロ圏 景況感指数(1月) 英 BOE政策金利発表、 カーニー総裁記者会見	ユーロ圏 GDP(4Q) ユーロ圏 CPI(1月) 英 EU離脱期限

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、396兆5,400億円から始まった。その後は21日の国債買入オペや23日の国庫短期証券買入オペ等を主に増加し、週末となる24日には399兆3,600億円となった。
無担保コールON物は、先週に引き続き、地銀業態の日銀当座預金の基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズが週を通して強く堅調な地合いとなった。そのため、20日の同加重平均金利は上昇し、△0.018%となった。その後も旺盛な調達意欲は週を通して継続し、20~23日の同加重平均金利は△0.018%となった。週末3日積となる24日には一層上昇し、△0.016%となった。
ON物の加重平均金利の上昇に伴い、ターム物の出合水準も上昇し、主に1~2W物で△0.010%~△0.005%の出合が見られた。
日銀は20・21日に開催した日銀金融政策決定会合で金融政策の現状維持を決定した。
来週の主な予定は、国内では12月失業率(31日)、12月鉱工業生産(同日)、海外は米FOMC(28日、29日)や英BOE政策金利発表(30日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.003 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約6,400億円で、週間償還額(約3,900億円)を上回り発行超となった。5・10日スタートでの発行増加や商社・鉄鋼・食品業態から500億円以上の大型発行が見られた。発行残高は、先週末の21兆9,653億円から23日時点では約22兆3,900億円弱となった模様。発行レートは、浅いマイナスレートも散見されたが概ね0%近辺の出合いであった。
来週の発行市場は、月末日に約1兆5,400億円の償還となっており、事業法人の発行ニーズが引き続き強くロール案件も予定され、活況なマーケットが見込まれる。尚、週間償還額は1兆7,000億円程度となっている。先週同様、3月期末を見据えて期中物中心の発行案件が多くなると思われる。発行レートは0%近辺の出合い中心と思われるが、期越え物に対しては、ディーラーの運用ニーズが強く、マイナスレートでの引受が予想される。28日に、CP等買入れオペが2,500億円程度オフアされる予定となっている。

<TDB>

24日のTDB3M物884回債(4月27日償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1162%(前回債△0.1122%)、平均落札利回り△0.1222%(同△0.1170%)となり、入札後は△0.120%~△0.125%のレンジで取引された。そのほかセカンダリーでは3M883回債(4月20日償還)が△0.130%、6M880回債(7/10償還)が△0.140%~△0.145%、1Y877回債(12月21日償還)が△0.133%の水準で出合いが見られた。
来週は31日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.06%近辺から始まり、週央にかけて△0.09%近辺まで低下した。短期3Mの発行があった27日受渡しでは△0.08%台から始まり、△0.06%台まで上昇して越週した。
SC取引は10年345回債の引き合いが多く見られ、週初△0.10%近辺で取引されたが、以降△0.1%台後半の出合いも見られた。
その他2年403~408回債、5年136~142回債、10年336~357回債、20年167~171回債、30年62~65回債、40年12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。